



ハイライトよねやま 161

1 寄付金速報 — 2013-14年度のスタートは… —

2013-14年度最初の月である7月の寄付金は約2億500万円で、前年度に比べて10.8%増、約2,000万円の増加となりました。普通寄付金が9.3%増、特別寄付金が15.3%増と、2009年度以来4年ぶりに2億円の大台を突破する好調な滑り出しとなりました。ご寄付をいただきました皆様に感謝申し上げます。今年度も引き続き、日本のロータリーが世界に誇る奨学事業として、変わらぬご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

2 来春採用の奨学生募集がスタート

2014年4月採用の新規奨学生募集が始まります。地区米山奨学委員会からの報告により決定した指定校は全国で531校(前年度500校)、指定校からの被推薦者数は1,543人(前年度1,490人)で、この中から新規採用奨学生約500人が選ばれます。

地区奨励奨学金(大学・大学院以外の教育機関を対象とするプログラム)を導入した地区は、過去最多の7地区13校。また、指定校に対し、全国共通の応募資格に加えて、地区独自の要望を提示したのは34地区中29地区でした。要望は「国籍が偏らないよう配慮を」が最も多く、日本語運用能力や応募者の学年についての要望などが続きます。

募集要項・申込書は8月中旬、指定校宛てにメールで送付予定です。また、当会ホームページからもダウンロードできます。

地区奨励奨学金導入地区(7地区)	
2550地区	アジア学院
2630地区	鳥羽商船高等専門学校 鈴鹿工業高等専門学校
2670地区	阿南工業高等専門学校 徳島工業短期大学
2660地区	大阪日本語教育センター 大阪コミュニケーションアート専門学校 大阪ハイテクノロジー専門学校
2680地区	神戸YMCA学院専門学校 公益財団法人PHD協会
2690地区	津山工業高等専門学校
2710地区	広島YMCA専門学校 福山YMCA国際ビジネス専門学校

3 ネパール米山学友会創立総会のお知らせ

今秋ネパールに5番目の海外米山学友会が誕生します。記念すべき創立総会は10月19日(土)17時から、首都カトマンズ市内のホテル・デル・アンナプルナにて開催されます。学友会の設立によって母国ネパールと日本との関係がより強くなることを願い、在日学友のギリ・ラムさん



(1998-2000/室蘭RC/東京米山友愛RC会員)やマノハル・ラル・シュレスタさん(2001-02/大阪大淀RC)らも、現地の学友たちと力を合わせて、準備を進めています。

「ロータリアンの参加も大歓迎!」とのことで、日本から参加する方の宿泊ホテル、カトマンズの見所やベストシーズンを迎えるヒマラヤへの観光、空港~ホテル間の送迎なども、学友が窓口となって手配可能です。現地ロータリークラブとの交流も企画中とのことですので、ネパールの学友やクラブ

と交流を深めたい方はぜひご参加ください。参加希望者は9月30日までに、ギリ・ラムさん(rgne.jp@gmail.com)まで。羽田発ツアーあり。ツアーの申込みは9月12日締切。関空出発の方は、マノハル・ラル・シュレスタさん(manoharshresthajp1@gmail.com)までご連絡ください。

4 米山学友が大阪に大集合！ — 関西米山学友会 —

「米山奨学生学友会（関西）」（第2660地区）の総会及び新規奨学生歓迎会が7月7日、大阪市内で開かれました。今年度は「米山学友大集合」をテーマに広く参加を呼びかけ、台湾・韓国・中国・タイの海外各学友会のほか、第2570・2620・2640・2650・2690・2760地区の国内学友会から、ロータリアンも含めて総勢175人が大集合する盛大な会となりました。

第一部の総会では活動報告、会計監査報告、新役員の選任が行われ、新会長に就任した何玉翠さん（1987-89／奈良RC）は、「私自身は奨学期間終了後、ずっと世話クラブに連絡できなかった。連絡方法もわからなかった。しかし、米山奨学生となったからには世話クラブとの縁を大切にしてほしい。私たち学友会が、その橋渡しの役割を果たしたい」と抱負を述べ、会場から大きな拍手がわき起こりました。つづいて、海外学友会からの参加メンバー（韓国：全炳台さん、台湾：陳怡潔さん、中国：葛太紅さん、タイ：ウイット・クラワッタナクルさん）が壇上に立ち、各学友会の近況を紹介。台湾学友会が支援する日本人留学生、川島尚子さんも、台湾学友への感謝の気持ちを語ってくれました。

第二部はくじ引きで席替えを行い、会場のあちらこちらで新しい出会いの輪が広がりました。最後は、大会場いっぱいに広がる“手に手つないで”の大合唱で散会となりました。



5 初ホームカミングに親善大使を招へい — 第2680地区 —

7月28日、国際ロータリー第2680地区米山記念奨学委員会が主催する「米山奨学セミナー」が神戸市内で開催され、大室ガバナー、滝澤ガバナーエレクト、クラブ会長・米山委員長、カウンセラー、現役奨学生など計155人が参加しました。

大室ガバナーは冒頭の挨拶で、米山奨学事業は日本のロータリーにとって重要なプログラムであると強調し、「米山の実践によってロータリアンの心が豊かになる」と、理解を呼び掛けました。

本セミナーでは、同地区初のホームカミング対象者として、よねやま親善大使の楊小平さんが招かれ、基調講演を行いました。楊さんは、広島平和記念資料館でのピースボランティアガイドの経験や、日中相互理解のために自ら企画した平和スタディーツアーを報告し、歴史を記憶し継承する大切さ、現地の人々との交流によって生まれた友情について語り、参加者は熱心に耳を傾けました。地区米山記念奨学委員長の林浩嗣氏は「ホームカミングをして良かった。楊さんの講演は、ロータリアンだけでなく、現役奨学生に対して良い贈り物になった」と、手応えを語ってくださいました。セミナー後は、学友を交えた「奨学生歓迎交流会」が開催され、奨学生への突撃インタビューなどで盛り上がりしました。

[ホームカミング制度は地区で毎年2人まで招待でき、費用の補助もあります（上限あり）。ぜひご活用ください！](#)

